

2015年3月22日／市民公開講座を開催しました

徳島赤十字病院は地域の皆様との交流を深め、病院をより身近に感じてもらうために、市民公開講座を定期的に開催しています。

3月は「ここまで進んだ心臓病治療～内科・外科の垣根を越えて～」をテーマに、徳島新聞社と共同でホテルクレメント徳島にて開催しました。

日浅芳一院長のあいさつの後、大谷龍治第一循環器内科部長が「不整脈に対するカテーテル治療の進歩と現況」、岸宏一第三循環器内科部長が「狭心症と心筋梗塞に対する冠動脈インターベンション治療の最前線」、福村好晃心臓血管外科部長が「高齢者にも安全に施行できる大動脈弁狭窄症手術」、細川忍第二循環器内科部長が「大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI；タビ）」と題して講演。様々な心臓疾患に対する最新の治療法を、映像などを使ってわかりやすく解説しました。

講演の後のシンポジウムでは、事前に参加者から募った質問に医師らが回答。約800人の人々が熱心に耳を傾けました。



大会場は心臓病治療に興味を持つ人々で満席に



大谷第一循環器内科部長



岸第三循環器内科部長



福村心臓血管外科部長



細川第二循環器内科部長



講演の後のシンポジウム

2015年2月27日／市民公開講座を開催しました

徳島赤十字病院は地域の皆様との交流を深め、病院をより身近に感じてもらうために、市民公開講座を定期的に開催しています。

まだまだ厳しい寒さが続く2月のテーマはズバリ「高血圧」。まず、金崎淑子第四内科部長が「血圧管理の重要性と家庭血圧測定のすすめ」と題して講演しました。金崎医師は「ふだんの血圧を正確に知るためには、家庭での測定が大切。食事・運動などの生活習慣を改善し、自分の降圧目標を知り、自分に合った降圧薬を有効に活用しましょう」と、高血圧の予防と治療のポイントを解説しました。

続いて栢下淳子栄養課長が「今日からできる減塩テクニック」と題して、日常の食卓での具体的な減塩方法について講演。「外食を控え、麺類を食べるときは汁を残すなどの工夫で、塩分の摂取量はぐっと抑えられます。減塩商品を上手に利用しつつ、旬の食材を取り入れ、少しずつ家族みんなで減塩を始めましょう」と語りました。参加者は95人でした。



金崎第四内科部長



栢下栄養課長

2015年1月23日／市民公開講座を開催しました

徳島赤十字病院は、地域の皆様との交流を深め、病院をより身近に感じてもらうために、市民公開講座を定期的に開催しています。

2015年最初のテーマは「乳がん検診と診断—そして、乳がんが見つかったら」。川中妙子外科指導医師が、乳がん検診・治療の流れや乳房自己検診の方法について解説しました。幅広い年代の女性を中心とした69人の参加者は、「乳がんは早期に発見すれば治癒率の高い病気。月に一度は自己検診を行い、2年に一度は検診を受けるとともに、異常を感じたら専門医の診察を受けましょう」という川中医師の呼びかけに、真剣な表情で耳を傾けていました。



2014年11月27日／第12回 心臓病ビジュアル市民公開講座を開催しました

「心臓病ビジュアル市民公開講座」は、カテーテル治療の実際を市民の皆さまに知っていただくためのもので、今年で12回目となります。11月27日に徳島市のあわぎんホールをメイン会場として開催しました。

当日は、徳島赤十字病院で行われた4人の患者さまのカテーテル検査や治療の様子をあわぎんホールへ生中継。中継の合間には当院と連携病院の医師が心臓病の原因や予防、カテーテルの最新技術についてレクチャーしました。

また、当院の大会議室もサブ会場として開放し、入院中の患者さまやそのご家族、外来患者さまなどが中継を視聴されました。参加者数は両会場合わせて217人でした。



2014年11月21日／市民公開講座を開催しました

徳島赤十字病院は、地域の皆様との交流を深め、病院をより身近に感じてもらうために、市民公開講座を定期的に開催しています。

11月のテーマは、「中高年の膝の痛み～グルコサミンでほんとにきくんですか～」。武田芳嗣第一整形外科部長が、中高年の膝の痛みの原因となる変形性膝関節症の原因や治療法、予防のしかたについて解説しました。最近CMなどでよく聞くグルコサミンを始めとするサプリメントについては、「少なくとも宣伝から印象を受けるような、これさえ飲んでおけば大丈夫、ということはありません。お薬や運動療法など他の確立された治療法を行った上で、効いたらもうけもの、くらいの気持ちで飲むのならいいかもしれません」と語りました。身近な体の悩みだけに市民の皆さまの関心も高く、157人の方にお越しいただきました。

2014年10月24日／市民公開講座を開催しました

徳島赤十字病院は、地域の皆様との交流を深め、病院をより身近に感じてもらうために、市民公開講座を定期的に開催しています。

10月のテーマは、「新米ママ&家族のための こどもの急病対応マニュアル」。小児科の高橋昭良医師が、徳島の小児救急医療体制やその中で当院が果たす役割から、発熱、咳・喘息、嘔吐・下痢、腹痛、やけどなど子どもによく見られる症状のホームケア、子どもの一次救命処置まで丁寧に解説しました。参加者は58人でした。



2014年9月27日／市民公開講座を開催しました

徳島赤十字病院は、地域の皆様との交流を深め、病院をより身近に感じてもらうために、市民公開講座を定期的に開催しています。9月の講座は、日本消化器病学会四国支部の第66回市民公開講座と合わせて、小松島市のミリカホールで開催しました。

テーマは「おなかの癌の治療と予防」。最初に、放射線科の木下光博医師が「切らずに治す肝癌の治療」と題して、肝癌の臨床的特徴や、肝動脈化学塞栓術（TACE）とラジオ波凝固療法（RFA）の組み合わせなど、当院での「切らない」治療方針について解説しました。次に消化器内科の桑山泰治医師が「胃カメラを使った早期胃癌・食道癌の治療について」と題して、胃癌・食道癌の検査の内容や、胃カメラによる癌切除の方法について説明。「お酒で顔が赤くなる人や、タバコを吸う人は食道癌になりやすいので注意を」と呼びかけました。続いて沖津宏第二外科部長が「胃癌・食道癌の完全鏡視下手術について」と題して、胃癌・食道癌の腹腔鏡下手術の方法や、完全腹腔鏡下食道癌手術導入後3年間の成績を紹介。「完全腹腔鏡下食道癌手術については、今後さらに症例を重ねて、術式の定型化をはかりたい」と語りました。最後に、徳島大学消化器内科の北村晋志医師が「大腸がんの内視鏡治療」と題して、大腸癌の罹患率・死亡率や治療方法などについて講演。内容の濃い講義に、222人の参加者は熱心に耳を傾けていました。



木下医師



桑山医師



沖津第二外科部長



北村医師（徳島大学）

2014年8月22日／市民公開講座を開催しました

徳島赤十字病院は、地域の皆様との交流を深め、病院をより身近に感じてもらうために、市民公開講座を定期的に開催しています。

8月のテーマは、「産科・婦人科の最近の話題」。産科・婦人科領域で最近注目を集めている検査について、当院の医師2人が講演しました。

まず、別宮史朗産科部長が「出生前診断ってなんですか？」と題して、お母さんのお腹の中にいる赤ちゃんの病気の有無を調べる検査の種類や内容、メリット・デメリットについて解説。「最近では母体の採血によるNIPT（無侵襲性出生前遺伝学的検査）が話題になっていますが、出生前に赤ちゃんの病気を知ることが本当に必要か、検査を受ける前に夫婦でよく考え、話し合ってください」と呼びかけました。

次に、古本博孝婦人科部長が「遺伝性乳がん卵巣がん症候群」について講演。女優のアンジェリーナ・ジョリーの乳房切除で話題になった乳がん・卵巣がんの遺伝性検査ですが、どのような人が遺伝性乳がん・卵巣がんの可能性が高く、その場合どんな検査を受けるのか、検査を受ける前に考えておくべきことなどについて解説しました。参加者は81人でした。



2014年7月25日／市民公開講座を開催しました

徳島赤十字病院は、地域の皆様との交流を深め、病院をより身近に感じてもらうために、市民公開講座を定期的に開催しています。

7月のテーマは、「熱中症の予防と対策」。福田ひろみ救急看護認定看護師が、熱中症の起こり方や対処法、予防のポイントなどについて解説しました。福田看護師は、「熱中症には命の危険を伴う状態もあり、高齢者は特に注意が必要です。疑わしい症状を発見したら、慌てずにまず意識確認を。意識があれば安静にして冷却・水分補給を行い、反応が鈍ければ迷わず救急車を呼んでください」と呼びかけました。



今年の夏も猛暑とあって市民の皆様への関心は高く、101人の方にご参加いただきました。また、脱水状態に適した「経口補水液」の試飲も行い、参加された方からは「子どもたちにも作り方を教えたい」「意外と甘くておいしい」などの感想が聞かれました。

2014年6月27日／市民公開講座を開催しました

徳島赤十字病院は、地域の皆様との交流を深め、病院をより身近に感じてもらうために、市民公開講座を定期的に開催しています。

6月のテーマは、「胃カメラ・大腸カメラのすすめ」。消化器科の山本英司医師が、胃カメラ・大腸カメラのメリットや検査の内容などについて、写真や動画を交えながらわかりやすく解説しました。山本医師は「胃カメラ・大腸カメラでのみ早期に拾い上げ可能な病変も存在します。早期発見・早期治療のためにも、これらの検査を受けることは重要です」と語り、77人の参加者が熱心に耳を傾けていました。



2014年5月18日／とくしま健康フォーラム2014を開催しました

5月の恒例行事となっている「とくしま健康フォーラム 医者と歩こう～爽やかウォーキング～」を今年も開催しました。白衣ではなく私服姿の医師や看護師と気軽に交流できるとあって、毎年大人気のイベントです。13回目となる今年も、110人の市民の皆様にご参加いただきました。

プログラムは当院スタッフによる講演会からスタート。福田靖救急部長が「あなたの心臓を緊急事態から守るために～救命処置を学ぶ～」、栢下淳子栄養課長（管理栄養士）が「かしこいおやつのとおり方」と題して、もしものときの救命処置の方法や健康を考えたおやつを選び方・食べ方についてわかりやすくお話ししました。講演の後はみんなでストレッチを行い、1.5kmと3kmのコースに分かれてウォーキング。このイベント、実は13年連続で晴れのお天気に恵まれているんです。参加者は医師や看護師と会話を交わしながら、新緑の中を気持ちよく歩いていました。ウォーキングを終え、血圧と血糖値の測定を済ませた人には、ホスピタルカフェのパン・お菓子とドリンクが振舞われました。

参加者からは「ふだんあまり歩かないので、この機会に歩いてよかった」「おやつの種類や分量は自己流で判断していたけど、正しい摂り方がわかった」などの感想をいただきました。



あいさつする日浅院長



福田靖救急部長



栢下栄養課長



緑の遊歩道をウォーキング♪



歩いた後はホスピタルカフェの
コーヒーでほっと一息

2014年4月19日／市民公開講座を開催しました

徳島赤十字病院は、地域の皆様との交流を深め、病院をより身近に感じてもらうために、市民公開講座を定期的に開催しています。4月の市民公開講座は、病院祭とのコラボレーションで「救援・救護」をテーマに行いました。

まず、当院の鈴江知子看護師が、「ウガンダのお母さんと赤ちゃんのために一赤十字の活動」と題して講演。日本赤十字社の国際救援・開発協力要員として、半年間アフリカ・ウガンダに派遣された経験をもとに、現地での日赤の活動やその成果について報告しました。鈴江看護師は「ボランティアの方から『この事業は母子の健康だけでなく、地域も作ってくれている』と言っていたのが印象的だった」と語りました。

つぎに、徳島県医療政策課医療戦略推進室の町田千尋さんが、「徳島で地震発生！そのとき県は？日赤は？」と題して講演。近い将来起こると予想されている南海トラフ巨大地震に対する徳島県の取り組みを解説しました。徳島県は昨年7月に発表された第一次被害想定と11月の第二次被害想定をもとに、地域ごとの効果的な減災対策や早期の復旧・復興に向けて行政・事業者等が行うべき具体的な対策を検討しており、災害時の安否確認に役立つ「すだちくんメール」もぜひ活用してほしいと語りました。参加者は121人でした。

